

サイクルで進める組織的な取組

～子どもたち一人一人が大切にされ、
安心して学ぶことができる集団づくりと授業づくりのために～

冬休みが終わり、最近、休みがちな子どもがいるんです。
授業中の表情がすぐれない子どももいるので気になっています。



2組担任

そうですね。私も気になっていたところです。



学年主任

子どもたちにとって居心地のよい学級になるように、毎日一人一人に声をかけるようにしているのですが……。



先生が、休み時間や放課後に子どもたちと話をしている姿をよく見かけますよ。
授業では、どのような工夫をしていますか？



私なりに考えて、例えば、話し合い活動の機会を増やし、また、子どもたちの意欲や努力の過程などを認めるようにしています。でも、効果が見られないので不安なんです。



話し合い活動が形だけになっているのかなあ。



同じ子どもばかり認めている気がするなあ。

学校生活に対する子どもたちの意識を把握することで、他の取組が考えられるかもしれませんね。



子どもたちの意識ですか？



年間を通じて、定期的に子どもたちの意識を把握しながら、取組の点検や修正を行うことで、先生の取組がより効果的なものになると思いますよ。
他の担任の先生も交えて、学年全体で取り組んでみましょう。まずは、アンケート調査を実施しましょう。

3～4月

P 計画 アンケート調査の実施

① アンケート調査を実施し、子どもの意識を把握します。

アンケート項目 (3月：学年集計)	1. 当てはまる 2. どちらかという当てはまる 3. どちらかという当てはまらない 4. 当てはまらない [%]			
	1	2	3	4
ア 学校が楽しい	40	36	10	14
イ みんなで何かをするのは楽しい	50	37	5	8
ウ 授業に進んで取り組んでいる	31	44	17	8
エ 授業がよくわかる	25	37	23	15

約8割の子どもたちが「学校が楽しい」と感じていますね！

4割の子どもたちが授業がよくわからないと回答していることが気になりますが…

私の目からは、子どもたちは積極的に学習しているように見えますが、私と子どもたちの意識との間には、少し差があるようです。

1組担任

授業がわかるようになれば、授業に進んで取り組む子どもたちが増えるのではないのでしょうか。

3組担任

先生方は「授業がよくわかる」に着目しましたね。では、「授業がよくわかる」の視点から取組を考えてみましょう。

ポイント

- 課題（実態を踏まえた児童生徒の課題）を設定します。
- 目標（課題を踏まえて児童生徒に期待する姿）を設定します。

4～7月

D 実行 働きかけ・取組

② 課題を踏まえ、具体的な取組を検討・実践します。

勉強が苦手な子どもたちのことを考え、基礎的な内容を重視した授業がしたいです。

私も、そのように考えています。

私も同じです。勉強が苦手な子どもたちが興味をもつ資料を授業で活用します。

子どもたちの反応はどうですか。

勉強が苦手な子どもから「授業がわかりやすい」と言われました。

多くの子どもたちが、授業が面白くなったと話しています。

一人一人の子どもたちはどのように感じているのか気になります。

アンケート調査を通じて、子どもたちの意識を再確認してみましょう。

ポイント

- アンケート結果を踏まえて設定した課題や目標を意識しながら取組を実施します。
- 取組を進める中で、取組の改善や修正を行うことも大切です。

8月

A/P 修正/計画 目標や取組の修正・方向性の共有

④ 点検の結果を踏まえ、目標や取組を修正し、共通理解を図ります。

一人一人の子どもたちが満足感や達成感を味わえるような授業を展開してみます。

これからは、子どもたちが学び合う場面を設定した授業を取り入れていこうと思います。

子どもたちがお互いに意見を出し合うことができる場面を設定してみます。

そこで、それぞれの取組に加えて、共通した取組を実施することにしました。

- 子どもたちがお互いのよいところを認めたり、励ましたりする場面を設定する。
- 子どもたちが安心して発言できるよう、授業中の約束事を明確にする。
- グループ活動等において、一人一人の子どもに役割を与えると同時に、活躍の場を設定する。

先生方の共通の認識に基づいて取組を進めることで効果が上がりますね。夏休み後も取組を進めましょう。12月のアンケート結果が楽しみです。

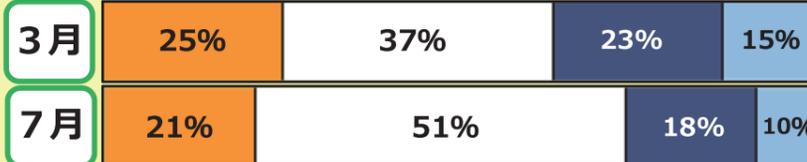
ポイント

- 定期的に取り組状況等を共有し、客観的な指標の分析に基づいて、計画の修正等について検討します。
- 計画に基づいて、教職員がチームとなって取り組むことが大切です。

C 点検 アンケート結果の分析・取組の見直し

③ 3月と7月のアンケート結果（子どもの意識）を比較し、これまでの取組を振り返ります。

エ 授業がよくわかる



7月は「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」を合わせた回答が、3月に比べて10%増えましたね。

でも、「当てはまる」の割合が減少していますよ。

子どもたちは「授業がわかりやすい」と言っていたんだけどなあ。

何か原因があるのでしょうか。

勉強が苦手な子どもたちだけを意識した取組だったのかもしれない。

授業が物足りないと感じていた子どもたちがいるのかもしれない。

基礎的な内容に関する説明が中心の授業になっていたのかもしれない。

一部の子どもたちではなく、全ての子どもたちに目を向ける必要があるかもしれませんね。取組を見直してみましょうか。

ポイント

- 「点検」は、客観的な指標（アンケート結果等、繰り返し収集することができ、比較可能なもの）を用いて行います。
- 「点検」は、児童生徒の評価ではなく、教師側の取組の点検のために行うものと捉えることが大切です。

9~12月	12月	1~3月	3~4月
D	C	A/P	D C A/P

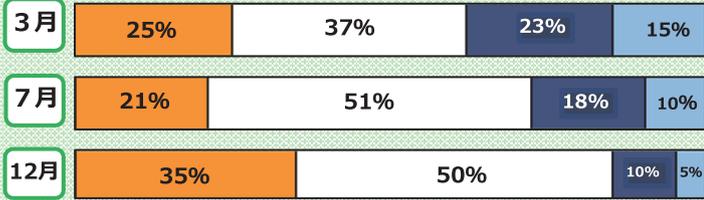


3月、7月、12月のアンケート結果（子どもの意識）を比較し、これまでの取組を振り返ります。

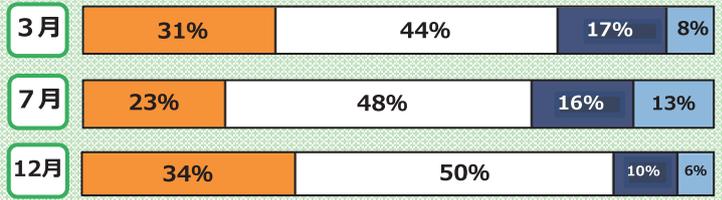


この後も、点検の結果を踏まえ、目標や取組を修正し、共通理解に基づき取組を進めます。

エ 授業がよくわかる



ウ 授業に進んで取り組んでいる



1. 当てはまる 2. どちらかといえば当てはまる 3. どちらかといえば当てはまらない 4. 当てはまらない

「当てはまる」の割合が増えました！
授業中の発言が活発になり、学び合う姿が見られるようになりました。



「授業に進んで取り組んでいる」の項目も「当てはまる」の割合が増えました！



授業だけでなく、学級活動でも、お互いの意見をよく聞くようになりました。



10月の文化祭に向けた準備では、以前よりも、子どもたちが団結して取り組んでいるように感じました。



子どもたちの表情が明るくなり、安心して過ごしているように感じます。欠席する子どもも減ってきましたね。
では、12月のアンケート結果を踏まえて、取組の点検・見直しをしましょう。



先生方、PDCAサイクルで取組を進めてきた成果が出てきましたね！
この取組を通じて、一人一人の子どもたちに「自己有用感」が育まれ、また、それぞれの学級にお互いを大切にする雰囲気生まれたのでしょうか。
この後も子どもたちの変容が楽しみです。

校長先生

本資料において、4人の先生方は「授業がよくわかる」に着目し、一部の子どもたちではなく、学年の全ての子どもたちを対象として、定期的に子どもたちの意識を把握したり、取組の改善を図ったりしながら、一人一人の子どもたちがもつ個性（よさや違い）を集団の中で生かし合い伸ばし合うことなどを意識して取組を実践してきました。

このように、児童生徒の実態に即した働きかけを効果的に行うためには、「学びに向かう集団づくり」と「子どもが意欲的に取り組む授業づくり」の相互の関連を図りながら意図的・計画的に取組を進めるとともに、実態把握や取組評価を適切に実施することが重要です。

また、日頃の児童生徒との触れ合いや対話等を通じて、一人一人の能力・適性、興味・関心に加え、悩みや不安等についてもきめ細かく把握するなどして、様々な側面から児童生徒理解を深めつつ、信頼関係を構築することが必要不可欠です。

本資料に示した事例を参考に、学級（ホームルーム）等の実態や児童生徒の発達の段階を踏まえ、必要に応じて具体的な取組を工夫するなど、各学校における取組の一層の充実に向け、本資料を活用してください。

【参考資料】

- 生徒指導リーフLeaf.18「「自尊感情」？それとも「自己有用感」？」（平成27年3月 文部科学省国立教育政策研究所）
- 生徒指導リーフ増刊号Leaves.2「いじめのない学校づくり2」（平成26年6月 文部科学省国立教育政策研究所）
- 学業指導の充実～子どもが意欲的に取り組む授業づくりを通して～（平成26年3月 栃木県総合教育センター）
- 学業指導の充実に向けて～学業指導を全ての教職員が進めるために～（平成24年3月 栃木県教育委員会）
- 魅力ある学校づくり調査研究事業リーフレット（平成30年3月 小山市教育委員会、令和2年3月 真岡市教育委員会）

令和4（2022）年3月 栃木県教育委員会

令和3（2021）年度 児童・生徒指導推進委員会協議のまとめ

サイクルで進める組織的な取組～子どもたち一人一人が大切にされ、安心して学ぶことができる集団づくりと授業づくりのために～